

## IV 終 り に

何の考えもなく、何の遠慮もなく、言いたいほうだいを述べたような気がしてならないが、なんとかしなければと考えた女子大在勤時代の思い出をぶつけてみました。やつあたりされたと思われる方もおられるでしょう。でも熱にうかれた者の言としてお許しが願えると思います。

看護とは本当にむつかしいことですね。しかし、今の看護婦さんは本当にまじめで、熱心なのに救われます。どうかこの放言を聞いて自分達の手で看護学をきずいて下さい。もう一度申します。貴女自からしか看護学をきずくものはないのです。それは貴女が看護婦だからです。